

「令和4年度学会発表助成」募集要項

1. 趣旨

対人援助の専門職は、日々、科学的根拠に基づいた質の高い実践を行わなければなりません。

この“実践”を一層高めていくために、常に子どもとその保護者の視点に立ち、自己評価を続けるとともに日々の実践を対外的に示し、他者から評価を受け、これを通して最善の方策を学ぶ必要があります。

保育の質が問われている今、保育士・保育教諭等保育専門職として自ら研究し、全体で保育の質を高めあい、「保育実践の理論化と、その理論に基づくさらなる実践の向上、またそれを理論化していく」という一連の流れを形成していくことが求められます。

そこで、会員の自主的研究を支援するため、子ども家庭福祉に係るさまざまな学会において発表し、保育士・保育教諭等保育専門職の質向上に貢献する会員に対し、学会発表に関する経費の一部を助成します。

2. 助成対象者

全国保育士会会員（個人やグループ、または都道府県・指定都市保育士会等組織）であり、保育士等保育に従事した実務経験が5年以上ある者（共同研究の場合に、会員以外のメンバーが参画することは差し支えありませんが、申請者〔代表者〕は会員に限ります）

3. 助成要件

下記【必須要件】を満たすとともに、【選択要件】2つのうち、1つを満たすこと。

【必須要件】

保育・子育て支援・子ども家庭福祉に関する研究（実践）を、日本保育学会をはじめとする保育・医療・福祉などの学会（別紙「子ども家庭福祉に係る学会」をご参考）での発表を完了していること。

※助成申請年度より3年以内の発表であること（今回の募集では、令和2年度以降の発表）

※各学会における発表の条件は、学会のホームページ等を確認のこと



【選択要件（1）】

全国保育士会研究大会「特別分科会」での発表を完了していること。

※申請の条件

- 必須要件と選択要件は、同一テーマ・内容の発表に限る
- テーマが変われば何度でも申請可
- 当該年度より 3年以内の発表であること

【選択要件（2）】

全国保育士会『主任保育士・主幹保育教諭特別講座』（平成26年度までの主任保育士特別講座含む）修了生が、それぞれの所属の都道府県・指定都市保育士会（保育協議会）組織における発表機会において、修了論文内容の発表を完了していること。

※申請の条件

- 当該講座の修了論文である旨を発表資料に明記していること。
- 必須要件と選択要件は、同一テーマ・内容の発表に限らない（ただし、いずれの発表も「主任保育士・主幹保育教諭特別講座」を修了した後の発表であること）
- 【選択要件（2）】での申請は1回まで

4. 募集期間

令和4年4月1日（木）～令和4年12月30日（金）

※令和4年12月30日（金）までに上記の助成要件を満たした方の申請を受け付けます。

5. 助成額

1件あたり 50,000円

6. 助成時期

ご指定の口座へ令和5年3月24日（金）に振込み予定

7. 申請方法および審査について

- 募集期間中に、別紙「令和4年度学会発表助成申請書」に記入のうえ、発表したことを証明できる資料（発表レジュメ等）とともに全国保育士会にご郵送ください。
- 申請内容を全国保育士会研修部にて審査のうえ、令和5年3月中旬頃に結果をご連絡いたします。

8. お問い合わせ、書類提出先について

全国保育士会事務局（藤川、安藤）

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

全国社会福祉協議会 児童福祉部内

TEL. 03-3581-6503 / FAX. 03-3581-6509

E-mail hoikushikai@shakyo.or.jp

【学会で発表したことがある方の声】

学会は、自分の興味・関心がある保育分野にたくさん出会え、学べる場所、まるで保育研究のお祭りというような雰囲気です。

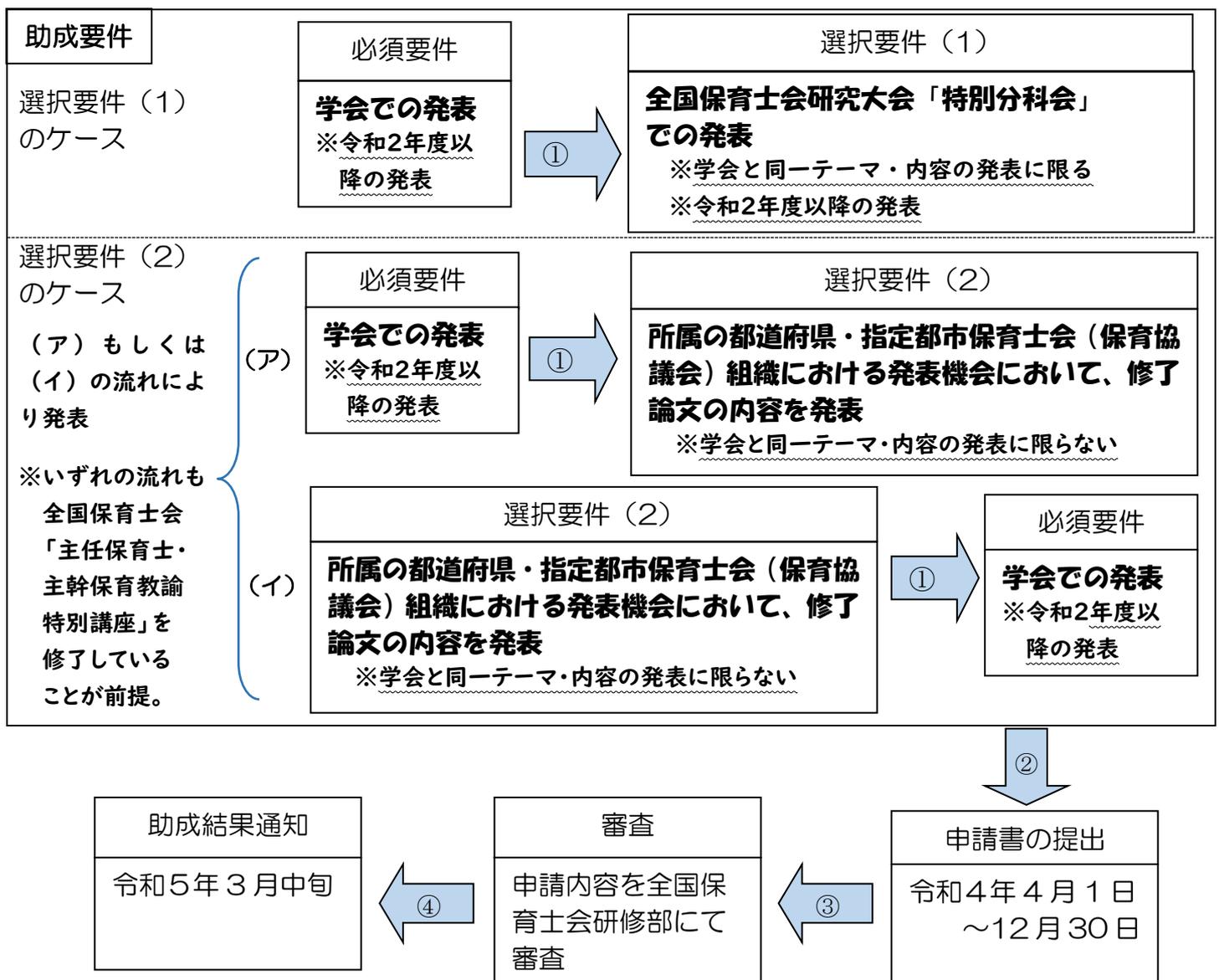
これまでに口頭発表やポスター発表を経験していますが、保育のなかのもう少し深めて考えたい部分を、園内研修で継続して皆で考え合い、大学の先生を交えアドバイスをいただきながら、さらに研究を深め発表をしています。学会での発表を取り入れたことで、園内にも保育を科学的に考察するという文化が生まれ、楽しさにつながっています。

まずは参加するだけでもお勧めです！！

【発表方法の例】 ※日本保育学会「研究発表要綱」参考

- ポスター発表 実践研究内容をポスターにまとめ、会場にポスターを掲示し、座長や参加者からの質問に答えながら自由に討論を深めるものです。
- 口頭発表 実践研究内容を発表し、質疑応答を行います。すべての発表を終了した後、座長の進行で討論を深めます。

【助成決定までのフローチャート（一例）】



子ども家庭福祉に係る学会

日本保育学会	http://jsrec.or.jp/
日本子ども家庭福祉学会	http://www.jscfw.info/
こども環境学会	http://www.children-env.org/
日本子ども社会学会	http://www.js-cs.jp/
日本子ども学会	http://kodomogakkai.jp/
日本子ども虐待防止学会	http://www.jaspcan.org/
日本トラウマティック・ストレス学会	http://www.jstss.org/
日本家族社会学会	http://www.wdc-jp.com/jsfs/
日本社会福祉学会	http://www.jssw.jp/
日本地域福祉学会	http://jracd.jp/
日本保育保健学会	http://www.nhhk.net/society/
日本小児保健協会	http://www.jschild.or.jp/
日本医療保育学会	http://www.iryohoiku.jp/
日本夜尿症学会	http://www.jsen.jp/
日本教育学会	http://www.jera.jp/
日本乳幼児教育学会	http://www.jseyc.org/
日本赤ちゃん学会	http://www2.jsbs.gr.jp/
国際幼児教育学会	http://www.iaece.org/
日本発達心理学会	http://www.jsdp.jp/
日本発達障害学会	http://www.jasdd.org/
日本発達障害支援システム学会	http://www.jasssdd.org/
日本LD学会	http://www.jald.or.jp/
日本自閉症スペクトラム学会	http://www.autistic-spectrum.jp/
日本コミュニケーション障害学会	http://www.jacd-web.org/
障害学会	http://www.jsds.org/
日本音楽教育学会	http://日本音楽教育学会.com/
日本福祉教育・ボランティア学習学会	http://www.jaass.jp/
日本保育者養成教育学会	http://www.h-yousei-edu.jp/